

令和五年度 奈良県知事賞

税金は希望と可能性

智辯学園中学校 三年 大野 瑚桜

「税金」と聞くと私はまず良くないイメージが浮かびます。大人達がよく「税金が高い」「何のための税金なんだ」などと話しているのを聞くからです。でも本当に税金はいらぬものなのでしょうか。

私の祖父母は最近、仕事を辞めて、年金をもらって生活するようになりました。私は年金が少なくて大変だ、というような話を聞いたことがあったので始めは祖父母のことを心配していました。でも祖父母は今まで通り楽しそうに暮らしています。「税金には助けられているよ。」と祖母はよく言います。また、高齢者割引というもので祖父は公共交通機関に乗る料金が安くなります。「どこにでも行きやすいからね、年をとっても楽しみがたくさんあってうれしいよ。」と祖父が言っていました。私は私の大好きな祖父母を支えてくれているのは税金だと気づき、やっぱり税金は大切ななあと思いました。

税金は他にどのようなことに使われているのでしょうか。考えてみると警察、消防、医療など思っていたよりもたくさんの方に税金が使われていました。私は「救急車を呼んだ時にお金がかかる国があるんだって。」と友達に言われた時にとっても驚いたのを思い出しました。さらに私たちの教科書、学校の机やイスの多くは税金で買われています。多くの方が一生懸命働いて得たお金を未来をにう私たちを信頼して使ってくれていることに改めて気付かされました。

このように私たちは日頃忘れてしまいがちですが、税金は高齢者や障がい者はもちろん、他の誰でもない、私たちのために使われています。特に私たち中学生は日本中の人々の信頼と優しさによって学校に通うことができます。今まで私は「どうして税金を払わなければならないのだろう」と思っていたことが、今回考えたことを通して、税金はまさに「困った時はお互いさま」という言葉を実現させるものではないかと考えるようになりました。私が払った税金が誰かの大切な人を助け、誰かの払った税金が、私や私の大切な人を助けることにつながる。そう考えると税金はなくてはならない、希望と可能性に満ちたものだと思います。税金の大切さを分かって税金を払える人が増えていけば良いと思いました。